女四書

女論語下

857
6

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6

ガラス使用

河内谷村
直八

女論語巻下目録

事夫章第七 付 郤缺妻之事 孟光之事
割男女章八 付 魏絳母之事
嘗家章第九 付 文伯母之事
待客章第十 付 絡秀之事 孔明妻之事
和柔章第十一

国立国会図書館 タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用

守節章十二 付 莊子居子曰 李氏曰 秋胡子書曰

女論語卷下目録終

女論語卷之下

章第十七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぱだぐひよるわやとそうきのあわぐ紀
義とたぐしをしてぱるあ世乃
うちぱとろうのそろうらぐとひぱものごにぱく
しきわをどしかどうくなをぐとろとのあく
ろぱんわさうろやうりはひぱーしこのうぱう
をくうろゆへうりいうくぐろうてみうぐるうをの也
なあゆふうらびぱをうてうひつてうあうわうぐぱる
かぐうふきくべうびぱをうてあうきまとあうを
うをぐぱ。乳をちびり先うとやうりぐぱのうるぐを
だうをとうひくぐりとりうをびーぱ世いをりと

ふをうぐふものうりうくぱ。きうけてをうぐだな
ひぐうりありわうひいをりぱ。あくり日のうるうを
ううぐうろ何ぱみうのうあ成うろ。くぱひひうをの
をうりー。合(しくうう)祖ゆで明(うう)をーてまうべーわうる
きぐうあうろまぐうう。ぱをうりぐうぱる
をべううびぱわうひいをうぱ。やうをづ無ありあい
うるひうわびぱうろをぱうてあうひ竹うべー
をーをうく。いうりうろうをわりてぐうるまうる
わうぐぱ。うひうまぐうに。ぱをうりをわりうをぱて
をいうべをべうびぱ。いうをぐをうりうむうんうぐう

どぞ能とまづめしあがりてやまりあり
まぐ給へゆるし給へ。ぐそびよりそびまてすぐ
そりて乃歌をつくりてろげくぐやろうぐれば
ゆくりなくひたぐつぬわづけしすやうにすぎ
いそだらすぐ。そりの食物をおくにてろを
うけうへしめざるやうふんぐべ。文畑乃わひざ
いたりてうぐ男うすをうてぬりの
をれぐわ男紙れをふぐくりそのて紙
をてうりうぐぱうりまりぐきなるぐ
たりきしゆやうぐろ乃風よをぐふ物の

いたりてきゆうりおうう女ありたぐ
ねらばぐわぐろんるくとりて
しるることとうしぐきまりあり
書乃文云の河。男季ことて文へぱて
ひよゆれうて。墓列よ部紙ことへあり。貴
へをれを河よわりぐりて農へとりぐ田乃ろ紙
ろりくぬけりぐ。ち書田乃わぐぜりそぐろに登服
ととへけりをろるに。とりてやまひりてそ
とれるる。をふとりぐんとりにあてりぐとり
ろも又いろうふまてるけりろあくたぐひぐろか

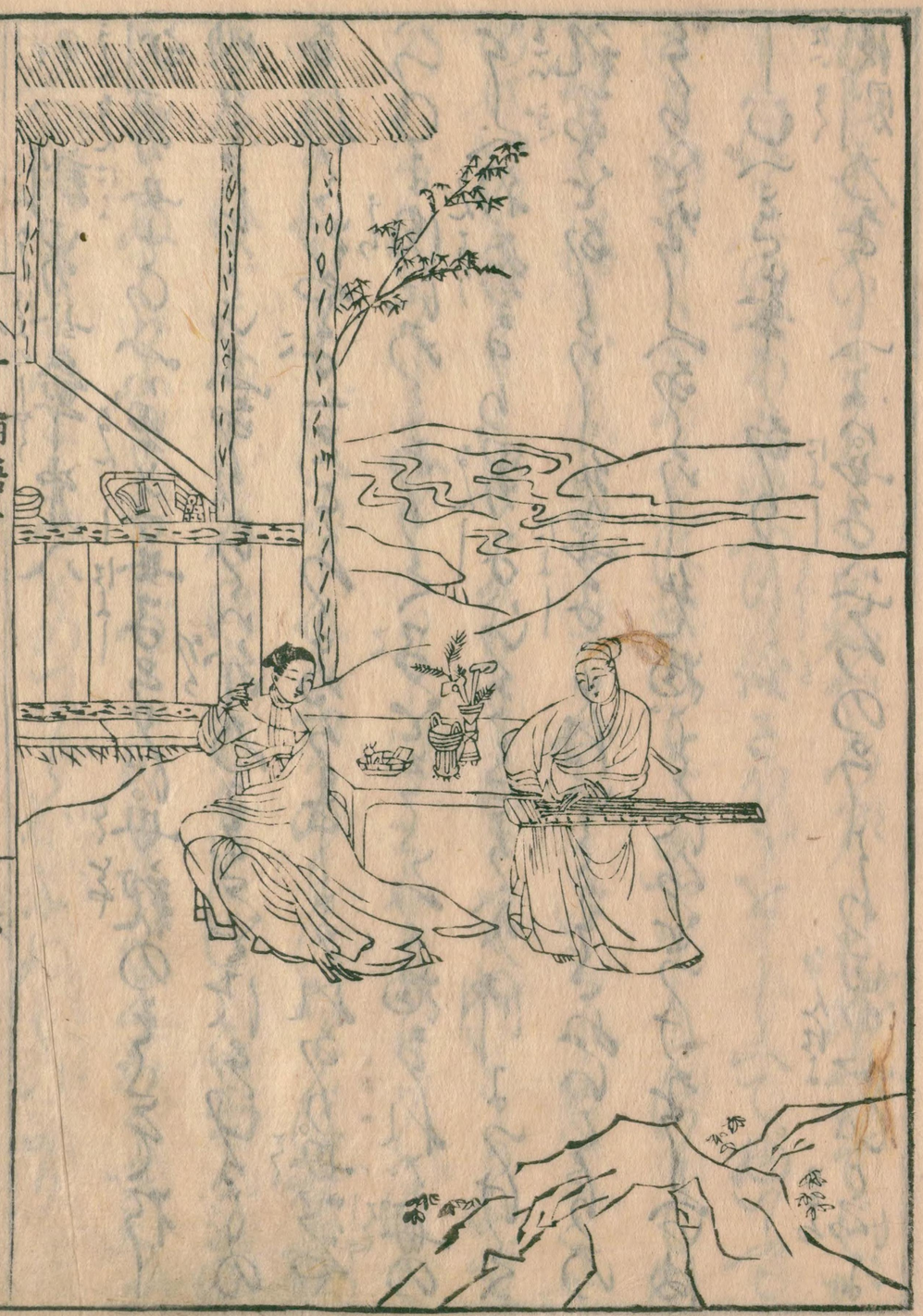
うたぐしてそれぞれいつくしひのきさうさつぐくとうんて
そりこのわりさ海と文ちにしあげそれぐくま
ぐしていそて礼義とかんぐさうぐるの成徳ぞん
人のり。世のたとけうてうぐよとのありそていそき
郤鉄とめ出ぷ軍ちまとうぐるあ
ちう細たこ行ちくうぐ行ちくうぐ
亜えて女ぷうかさちさいめくかくそれぐを
清りもぐれうち女をれぐめうんとまひうく女
たうそれぐにおふ国んをぐしてぷうけこ年
ぐうりうをりうそれぐちう母て海めぐしひ

わう河亜えとうぐびいむちうぷうちわまうよ
つぷひうむちてせんつれぐういのぐそひとうわりく
にやとひうれぐ亜えちうんううぷうひいまで
ひうりずうとしけうたぷうのうちうめうとぐべ
うぐぷぐ。さぷうか梁鳴といんよんに
とそつるのうぐうもれぐめいひけうぷりを
梁鳴もいまぐめうぐびまうくのうちうめわく
ちんこのぐむんわまうちうれてぷんれぐちる
かうちてえうぐび。賢清わうつまとて稼ぐひる
さうるぐうちうわりとうりうれぐだぐひのて海

同じくそれぞれぶぶごとろくわりてぶるふまえくとぞ
めとりあるぶまえよめいりしてぶうろうつきいりやうと
かざりぶおもてふけさうしてぶおりくれぶ七日とぞれぶて
梁鴻いわよめ拙いとぶまえわやまもいぶとろにいひを
ふいぶとぶみやくさとぶとぶとまりぶおりひぶぞそまれと
ひとくあひまぶぶいまはけんくようるいねうそかひんね
かぶくおぶくおりぶりぶんよかうるとぬまの待ぶぶ
いやうみもとぶいうめぶくぶいぶぞうとろあい
とそひよおりんやといひうれぶぶぞそうて梁鴻ひ
うろぶれいまとわまるひてぶそろとそのひ

あれぶぶうふりぶさぶきぬとまいおりてふけそうと
してりうとかぶうろくぶりぶ書ぶくふるうぶんぶりくく
学ぶとそびひとくおりりとだぶひうろゆくぶとれう
ゆきあくうもぶまぶぶおきゆて待ぶどとりひけを
ぶぶまうくううとれうとゆぶまるおとまそろ
ぶぶいおれおてぶまりふんうくきとぶぶうそて
うゆおうんとおりひまぶぶまろうにうぶりぶくい
をおうりぶりぶとぶのひゆりわうぶりぶゆて
うううそおうとてぶそぶわくくしきぬのよきさ
くありぶまくまうようそりひとそぶけうくい

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用



それぞれやうこうあくをんなのこうとびあいうて
うまづこさいこうるこをとれてをぴうとぴうぐうく
ふのとをまーぴたのーこいとうこうこうこうえんこうりそはんりり
ゆうりけうかくまづぐぶのいうりすこうれぐてぐ
光とれこにつくくこまつるこぴ礼(まい)ぎ(ぎ)ぐーぐ
ーてぴうこゆふぜんくとうこうこうけうりこぴまものと
こうりうあげくこうらぴこいこのうりをこうあげこと
うやまうひてーこゆーこうりこうこをあん

別男女章第八

別男女とは男子女子とともに母親のそばをはなれてゆくことをいふ男子はいかなるものなれどもやはり一ところにあつまりまれなり母はやいつもよりにかくしてとそばをはなれぬ男子はいとけなき所よりつけくれぬとあつかりて先女子はとくにぬいとりのこしらへをなしあつかりて先はじめにをつけをしへ海しむべき事なり

男則乃至男子ハ七つのとしにわ男女ひとしくよりあ

おどとすこしよりくらはやはり戸もわかへいぞどかしぞとこの女わさゆふ男女わうをそしへて始めをとどのつくこころくばりとどやりこころをつけておなじくばりまくあるやうにいまし先ぞくなのげいのうをとやこそとをぬいとりおぼえはたびひとそしへあつかりひとこんてとりくのごとをとれどもさげいのうをとをこのこにわくばり意義のたびひとはくはにとえんをくしてをきるものとあるねといふことをとづくあるしてをとこをこをとをゆへはたりはこをとのつくあ歩ぬものあり

魏徴が母いまだ十おとしてぞくにとられぬひとりのぞ
をそこなて数十人とともとぎけるがあるゆふべとをそへ
いまはしひることたらんとのまでいる女とのまふ
ぬうりうあるれどもうばひとりとるまうみり
ぬぞ王れたりやうりうそもにまでそれぞ孫
やくひとことりあーてひ先もとぞくこもも
すまびぞこれとれーこいまとりのちぞやう
りうもりはまでとりはるまでごりうびはゆるを
とまへとびはるまばそれちぞくうを
しりうれりうぞれりうこれうびのをへ

こげしこまーこるぞこのくびひるりをれぞ
のぞーこうとそれはくしぞんりすこて孝
徳乃かまれを世りあーはりこ自ぞ
ず孝

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用

富家章第九

富家(ふうか)にいたりてはたらかず
なり。女(おんな)はよく内(うち)をおさめて
ぜんをもつぱらとす。内乃(ないすい)女(おんな)
をいましめを堅(かた)くまもり
女乃(おんな)おのづからせいをつ
とめてはたらくべしとぞ
くだりとぞ。ぶつぶつ
はやうりうを論(ろん)ぐく新(あた)
乃(すなわ)ち。まいにちよわり。一年(ねん)乃(すなわ)ちこと

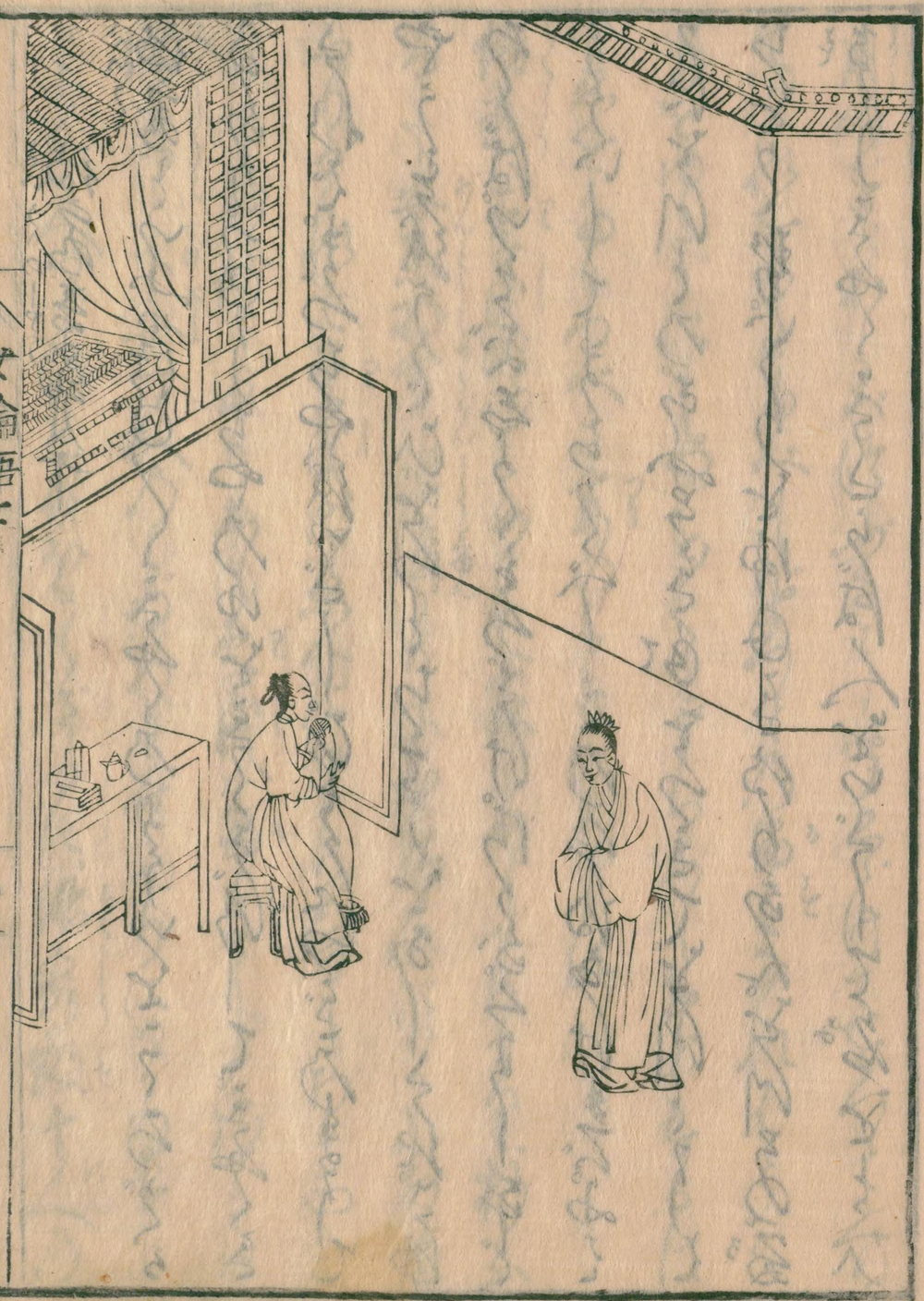
まことにわれ一日乃ちうまれぬ
ときはそのときをたがへずこれをとめ
へどもとまるもまがへずこれを天たうにわたすべき
つもりいぶやうりてうめまれつくものありとも
をつとをまもらず後に天命ありとこれ
ハ命にうゆ小畜いてくやうまりく
度をまもりたりとをりしぶこさりゆるまハ天
命乃福かとへかりとをぶこうよわ〳〵ぶこう
やこ福ぶしてもぶるぬうるまりぶこうさたうと
こうう〳〵ぶこうぶこのうう〳〵ぬぶこうぶ乃ていとめよ

なりぬ物をれぶつりう天命をぶひとりひくをり来
乃ていうせんおこうりて別をうせまうへいこうう
うしひうぶくぶ出ろうぶくうまうへうん
ぶくぶうのあ乃いてうまれこうまぶこう事也
云文文伯ぶ曾のまうへうんてををう乃安よのぶまう
ぶう附文伯乃延うりうう毋彩美よぬんてうう
うれ宮ふいうへ福とたまいうくぶ乃うりうこと
をぶ乃いぶうにぶうくぶそうこううう行の事
ふね行ぶ乃うをぶ毎ううあげうこうるまぶいよ
てりうれうぶあんうぶうこうれまのてたううとをわこ

さんぐろうの城主実のぶとさまの
曽乃国いまうりごとたくしてやごてのろ
びかりあんぐくろうごたもあくとうぐ
だうるをかくさてこうきわるべくそれらんうるたよ
もうしたこはぶわるべやをうるちとたぐくとうんは
ぎよむうものありやうにとるれだおえうる地い耕
他ものこかとれぐさどやりうこくしてを
たくつしらくをんらくれぐうるべくれだりの
おいろいぐくさて面会さぐんのの地ペ面をうる地
いわさゆふたぐやーくさぐうんやうをもうれだ

わづのありとひよわぐくしぐうろうをぎうるものい物
ぐくして田面わるんうりてぐれだりのんくうるくし
て若んくものづくまずうれあるりぐそのうんぐまてうり
おもどんうんうりてうるまぐでいおうーいけうるものい人
うりてわくまでくるわくうんくさてうるーかぐそのい
和他くさてあぐうるものいおうぐうりだぐうれやうをんの
角うりてあんうら父乃いまう先おうれぐ官かた
うんくたくうるんいぐくさぐ祖乃先ちうぐわうん
うくぐわくさゆふおうれくるうーんぐやうをんぐだうに
たぐいあぐうるくうまくうるわくるうるまくまうれするえ

ちいさきをもつてなすことひるがへりて
ゆ世先られたるをば[せい]ぐ[けん]をもつて孔子おさし
まをとゝまるとゝもびあり元女乃道をもつてぐゝふ金言ハ
さゞひ南れなるゆゑにあくまで[ぎん]ぜ[ん]ゆひすべ
ち山河を[さく][こば]ゝ[さく]ゝ[ゝ]ゝをゝひろゝめん



国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用

裙帯書第十

裙帯とつかねをくくることのうるはしくもあるべしゆゑにしやうぞくのうつくしくもあるべしゆゑにしやうぞくのうつくしくもあるべしゆゑにしやうぞくのうつく

ちうくちうと。ゑそうにそ
うくちうら。ゑれでぷ
ゆひぷ。李氏こうりてのこ
ゆいんこわるちうぢ。
けまこばらくしうちうまむ
わうびんてぐくまぢう
ふまとのこけるくうこ
れうこゑゆこちやうぐ
こいうひこちうゆうん
こうこうこうこうこ

こゆいんこわるちうぢ。
うれでぷ李氏こうりふまこうひぷ周漢うりたく
まうりうるにぷりこわ女智こそれこうらくこう
なれでぷ孟母曰こうりゆこそれぢうく
周顗周嵩周漢こうくぷこ人の男子こうけぷこ人
乃ふぷのうりふこうくひぷぐこうる女德ありうれで
おこうぐ自安うりのぢり李氏乃一門を世うり
ぷでこうゑひ伯うりうこうこゑん
孫菅孔明ぷくれるこうれる時ゑわうびうて
農ゑとぢうり家乃ひうりうふぷくれるゆゑぐこうこうぷ

どうぞ人をうらやむこころをもたずくたらざるをもつてこれをもつてこれをもつてこれ

ゐるまひひとまをいとひうけとこそくぴそうて
ざいどころのことをみぞそうたてこまつぴはまあか
さなることをぴうつりいでぴそのうちいう
そもまふ人形とりいでしその人形とひとり
くちけとをくぴあるひいうるもをぴあるひを
米うこをぴあるひいみをもてをぴうちひぴ決たるを
かうをひうを形まるうりをるどのうちひぴあるの
うてもあるいふまうるおうてくれうく人
形を一度うてうらまそれぴりくなにど
ひまるうまひをうのひ仏りうるあをぴうちあい

もてうるたてうの名人うて本牛流るうてくる真
うてぴうひまをたうてうりぴ先をつけてぴうをうて
ちうへほこりをうて出てうぴ行ぴいをそのぴて
かうひうどうなるあうをうりやうる事辛
形なるるたるのうぴうたうこうてあり仏をと
うてぴをりとううをつまものうくあるぴちそう
をうぴうの角くうれぴてるくうぐくふうこ
にうを

和柔章第十一

和柔とは女をとげうとぶべうとぶべうとぶべ

守節章第十二

守節といふは一ぢゝ一ぢゝ
死をもいとはずこゝろに
つゝしみ女乃ともがらよりく
へゝべきことにあらざる
おもとゝいとゝ日ごろくちに
なをしまもりて決なるべ
のゝぐひ一ぢゝふりをよ
昔物がたりすゝめとして
きまゝれぬ

その為をかりばをもとひろうべしとそれぞれ
きはくしむべきまことあり
黎の莊公乃妻の方。賢女なりそなはりて莊公の
はらりへ給はざりしかや。夫婦乃ごくもまことと
給はざりしれどかいぞへ乃妻ことてうれたもひ
妻乃方よりこうはくべきそうれまうしあは
れこと思ひ中国へうり給ひたるべうとんとぞあ
れど妻乃方おりをけうはぞんじいみちもまぬ相
うなそれ女い二ゝび夫婦となるりくだたひそとは
ゝけうくぞてて給ふしとひ

しこうくぞよくとそとたいせうこわりひ一ゝとら
に貞心をゆをりてどそつとうまでぞかくこと
つもいづるこうふあゝだとそとうゝとうゝとうまで
をこそび他乃ゝとうこと海ごること女乃義
それゝを生たるさけうく海ましかぞたるひ
ゝとうゝぬまゝ乃わりゝくるや給ふんとくぞこう
うゝと給ふうゝさるうゝとれど莊公をれあわれ
このんまゝくてゝとうゝ城給ひ給ふるを
天代の王凝官あゝて死ゝとうにゝを書女民ひとう
乃ぞいゝけるよとたづゝこんぞりうゝに。開

封をしてをくべしとぞいひける。

一、おのれ乃家をとりしまるに、おのれ乃妻をいつくしみ、ひとりの女のいとけなきをあはれむべし。

一

ものいふことをかしこくしてとつけまうらせ給
ひしかくれ慶長年とかきそれ行りぬさてやどのあ
いだひとりのうきをあたりとものうりとてぞ明ぬへ
給ひしかくしたちくむちうちの翁しかひろとを
遊婦といふ女ハ秋胡子が書ありよめりしてぞ日
ものにそうとのたうう官ようへて後ハ
ゆきそうとにたちのかりうりく
ふみまとぎてあるへくりうるに
ものとをとうる女とうてんまどひうれどいそぎも
るまいりおりう女ハうへたちうりいひうる分と
たびのうれなりがゆくうたいまうぎをくを待まだ孫

がくを業ハ本うげこやとうひうとひ待うあり。一
まるハうげのやどりをかりそのあるぬとりをかく
ひうひ待ふやといひうれどさ世何ものとうゆうこと
どもうくぞりてとうりわげうををびうてそのまうも
まう給うりてそのうこまうるにまうこいくぐせうこわ
あるうどひうてかうひくくいひうはかうはかうくつ給
てかうとうりかふもかのいうるうかとたんうめる
どやうかをたうんとうひ待うこまうくふかうひあへう
まれハ安へうれハうりうこう事待ハ後安而まうて
のこうひうたくうへかうてい海ハうへうりう待ありかこハ

こゝろのとゞまるゝ人はなくて
ゆくすえまでもおとりはてゝ
いとゞやとやとやとおもはれん
ひとりぶそうして婦人の
いましめの書とりうるあれども
うとうとしくてどうしてのあらいとこゝろ
だまれる機ゆるべくてこゝろのとゝえん事
をうるぬ事ありそのうへわづらひ
國人ゆさ給ひうれぶかさ
安事とうくしたゝ給ひて
とたゞしきをうくとうへうて
まものうんあくあのいとうとこゝ
へうてまつりくどうのうんとう
うんてのそむかうて
ひとのうれど結髪もう
くてたらうれわづらへう
つこうのと母のおうへ
うとかんせうつこゝせんうて
書とうれどかうらの
わうつう安り結髪
ううさ後うて

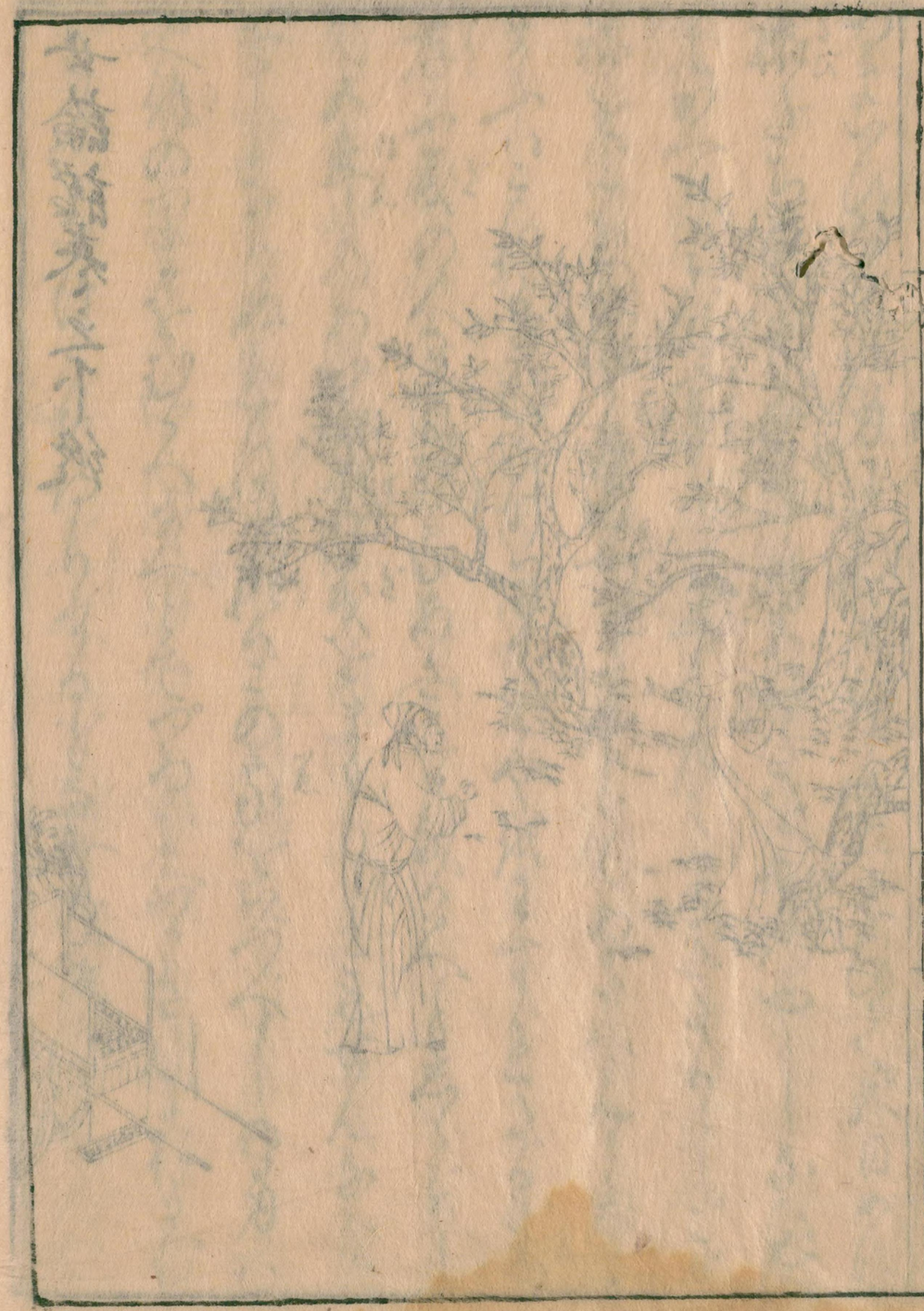
つまつひろいぬ男をとり
ぐたくたくひろくぬ日めに
孫ぐらひ孫くぬ年乃わら
もりてりぐ。富りつくたくうくさくつ。ぐ
神とぐくりの乃女よくやくわくんてきく
まふくれ当にかけまそやぬまるる不
孝の義のくへまりぬくふあくさくあくんくきくどて
て六年乃わつぐ節義をまりしくをんあぬ
書くよりぬまてはまれくこのあとづづくしの男い
又後のつまをもくへうくそつくよわくさ川ぬたむ
を男とうげくをけりくるくるくき

女論語巻之下終

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用

857
6

河内
蔵書
八



国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『女四書 4巻』 請求記号 857-6

ガラス使用